

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

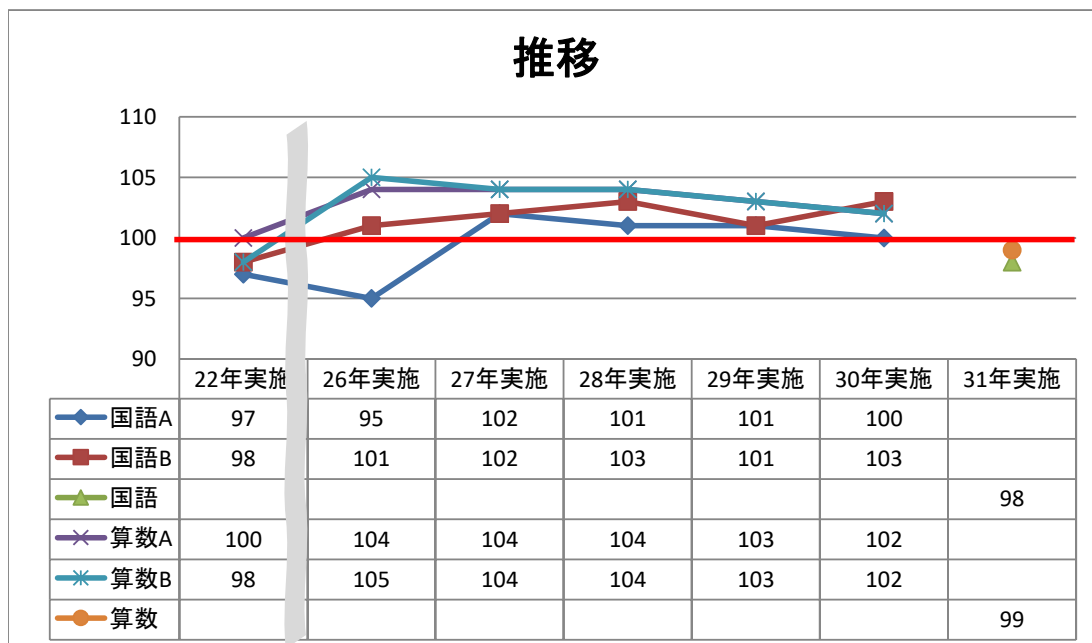
目標値：国語・・・102以上、算数・・・103以上

3.指標に向けての取組

・課題である読解力をつけるため、主体的な学習を目指す授業改善(子どもの課題追求・学びの振り返り)に取り組む。
 ・学力差に対応し、きめ細かく丁寧な繰り返しの指導を行う。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国 語	算 数
本校	98	99
嘉麻市	98	97
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

・国語・算数ともに目標値に達していない。
・国語は、「文と文のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと」と「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと」に、特に課題がある。
・算数は、「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できること」と「示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができること」に、特に課題がある。また、算数は、記述式の問題で、特に正答率が悪い。
・課題である読解力を伸ばすために、課題に対応した研究主題を設定し、主題研究・授業改善に取り組んだ結果、「読むこと」に関する問題は、無解答率0%で、文章の内容を押さえながら読もうとする力がついてきたと考えられる。
・授業に対応した家庭学習やその確実な書き直し、授業中に定着しなかった課題の個別補充などの取組により、昨年度(5年県学力テスト:同一児童)よりも正答率が向上(国語6.4P、算数3.6P)している。

6.各学校における今後の取組

・本校の学力の推移、正答率の低かった問題の趣旨、改善策などの共通理解を図り、教員の指導力の向上に努める。
・学力の個人差が大きいので、国語科においては1～3年生、算数科においては全学年複数体制で指導を行う。
・算数科において、すべての単元、単元終末段階で習熟度別学習を行い、学習内容の定着を図る。
・モジュール学習(毎日15分間)において、基礎基本となる「言葉の力」を高める取組として、言語プリント・読解プリント・視写を行う。
・週末課題として、全校一斉に、実態に応じた「ひまわり先生のパワーアッププリント」を活用する。
・上学年は土曜未来塾、下学年は放課後学習への参加を奨励し、基礎基本の定着を図る。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

各学校が自校の課題を明確にするとともに、嘉麻市アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想をもとにした学力向上策を浸透・徹底させていくために、次の7点を中心に取組を進める。

- 学力向上プランを各教室に浸透・徹底させるためのPDCAサイクルについて指導助言を行う。
- 学力向上を図る上で効果のあった取組について共有化を図る研修を企画・運営する。
- 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図ることができるよう、指導と評価の一体化を図る即時評価の取組を奨励したり単元終末段階における習熟度別学習の取組を支援したりする。
- 校内研修や学校訪問において、思考力を発揮させ最善解を導き出す「かく力」を育成するための指導助言を行う。
- 学力向上に向けた取組が組織的・計画的に実施できるための指導助言を行う。
- 家庭学習の習慣化、個別化に向けた取組についての指導助言や支援を行う。
- 主幹教諭研修会において、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。